

視察報告書:

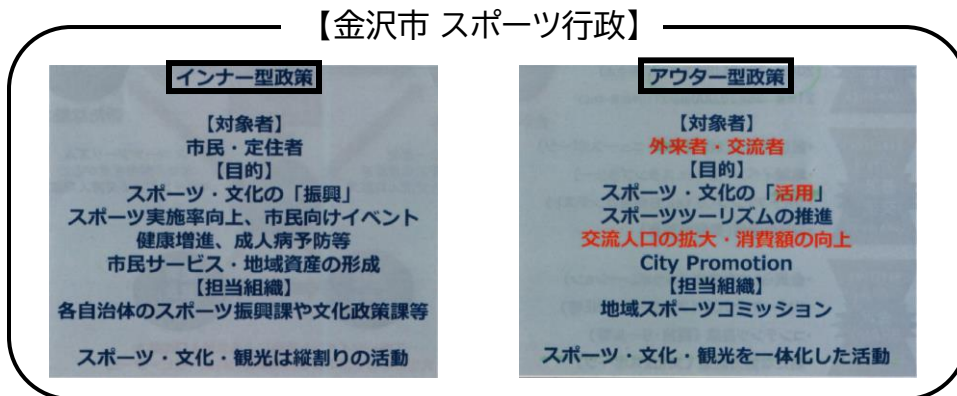
所属会派	おかや未来研究室	氏名	中島 秀明
視察の名称	会派北陸視察 金沢文化スポーツコミッション (石川県金沢市)		
日程	令和3年11月17日(水) 午後1時半～		
視察要点等	<p>金沢市の文化スポーツコミッションは設立後、三年程が経過しているが、文化とスポーツの両方をツーリズム化する文化スポーツコミッションは、全国でも大変にユニークな試みである。コロナの影響もあって活動が十分に行えなかった可能性もあるが、それらの状況を含めて視察することで岡谷市への活用に向けた研究の参考としたい。</p> <p><確認事項></p> <ul style="list-style-type: none"> ・成り立ち、背景、運営形態等の組織に関する状況 ・これまでの実績と、現在の活動状況と及び今後の展望 ・将来的な目標とそれに向けた課題 <p style="text-align: right;">等</p>		

【概要】

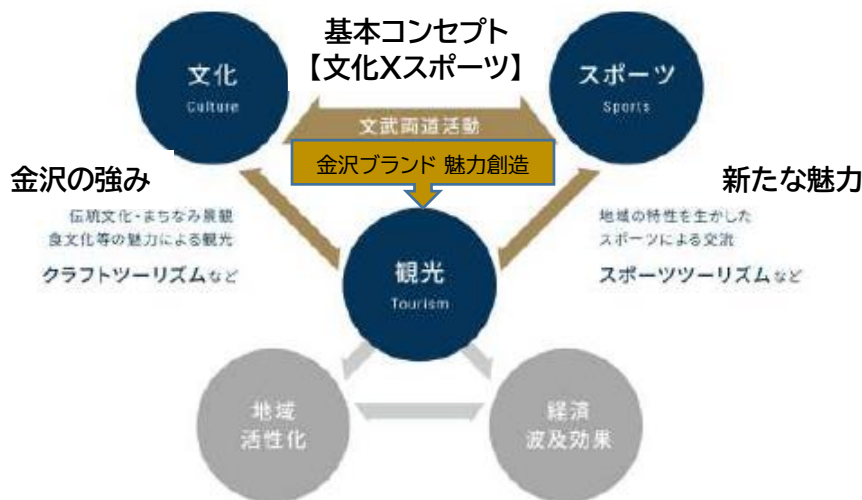
金沢市で文化スポーツコミッションとして、金沢の文化とスポーツに関してワンストップで対応すると共に、金沢の観光資源とも組み合わせた一体的な文化スポーツツーリズムを実践している。

【内容】

・2018年7月に設立された『金沢文化スポーツコミッション』の金沢市における位置付けは、市のスポーツ振興課が主に担当するインナー型政策に対して、アウター型政策を担当している。(下記のブロック図参照)



・文化スポーツコミッションは、“文化”と“スポーツ”を相乗的にコラボレーションすることで、金沢の“観光”、“地域活性化”、“経済波及効果”を狙った取組となっている。文化及びスポーツの其々のコンテンツを単独で完結させるのではなく、それらを複合的に且つ多重的に取り組むことで、様々な波及効果を狙った事業になっている。



スポーツイベント誘致による交流人口の拡大
文化とのコラボによる消費単価の向上・リピート化

- ・金沢文化スポーツコミッションの設立にあたっては、首長（金沢市長）の強い思い入れがあり、外部より民間運営の経験者（代表を含めて）をリクルートしている。
- ・市の各スポーツ団体だけでなく、県のスポーツ団体とも連携しており、各種の大会の誘致に関しては、県が窓口になって取り組んでいる。また、大会の開催に向けては各種の補助金や助成金の仕組みもあり、大会運営に関するサポートを含めて連携して対応している。
- ・各種の大会自体の運営は、各スポーツ団体あるいは当該団体が行っているが、大会の誘致、観光ツーリズム化、金沢の文化や地域との連携は金沢文化スポーツコミッションが窓口となって対応している。

【視察の感想】

- ・従来までのスポーツツーリズム（観光に向けたスポーツの活用）と異なって、金沢の強みを活かした伝統文化を含めたツーリズム化は、大変に先進的に興味深い取り組みであった。スポーツの大会に金沢を訪れた人に金沢の魅力を伝え、観光や地域の活性化に繋げるだけでなく、地域を巻き込んだ取り組みにすることで地域の人にもスポーツを知って理解することで、そのスポーツのサポーターになってもらうことで裾野を広げる上でも効果的であり、スポーツの普及に繋がると思う。
- ・文化スポーツコミッションのメンバーは、其々がビジョンをしっかりと理解し、共有していることを強く感じた。各自が、同じ方向を向いて、且つ積極的に活動していることを痛感した。（打合せ中でも各自が其々の意見を闊達に述べていた。）
- ・金沢文化コミッションは、そのビジョンや活動内容も非常に印象深かったが、なにより、その中で働いている人の熱量が大変に高いことに驚かされた。その背景として感じたことは；
 - ① ビジョンの共有と目的意識がしっかりできていること
 - ② 民間経験者がいることで、民間方式のプロジェクトの進め方を知っていること
 - ③ 市の行政トップとのチャンネルが確保されており、行政側との意思疎通ができていること
- ・今後の課題としては、設立して数年しか経過しておらず、また新型コロナ禍で十分な活動ができていないことから、組織のあり方やノウハウの蓄積ができておらず、また、取り組みに関する行政や関係団体及び市民との区分けや繋がり等の課題も多く、今後については未知の部分も多い。
- ・金沢市が、今後、Global Activity City（現在世界8都市）になることを目指しており、文化スポーツコミッションの活動が今後も広がっていくことで、より大きな可能性に向けたチャレンジに期待したい。

※諏訪地域を縦断しているフォッサマグマの活用を提案された。身近にあると気が付かない地域財産の再認識と活用に向けた検討の必要性を痛感した。